

本事例についてのお問い合わせは

富山県立となみ養護学校 教諭 中 川 哲 之

までお願いいたします

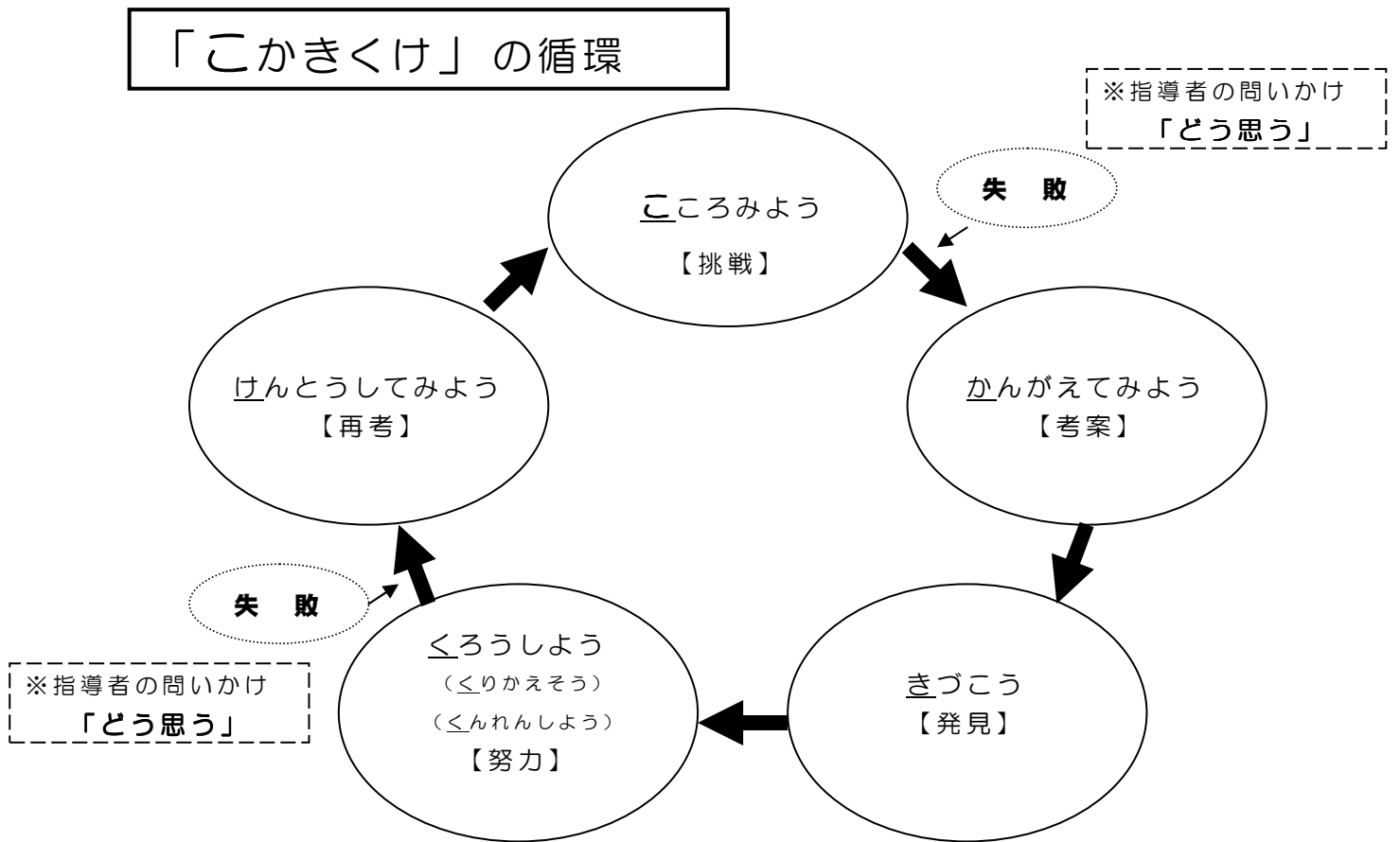
団体名 (個人名)	富山県立となみ養護学校
団体(個人) 所在地	〒939-1723 富山県南砺市利波河1335-5
TEL番号	(0763) 52-4520
FAX番号	(0763) 52-4519
メールアドレス	<a href="mailto:tonami-ed@tym.ed.jp">tonami-ed@tym.ed.jp</a>
記載者の職・氏名	教諭 中 川 哲 之

## ○ 実践のあらまし

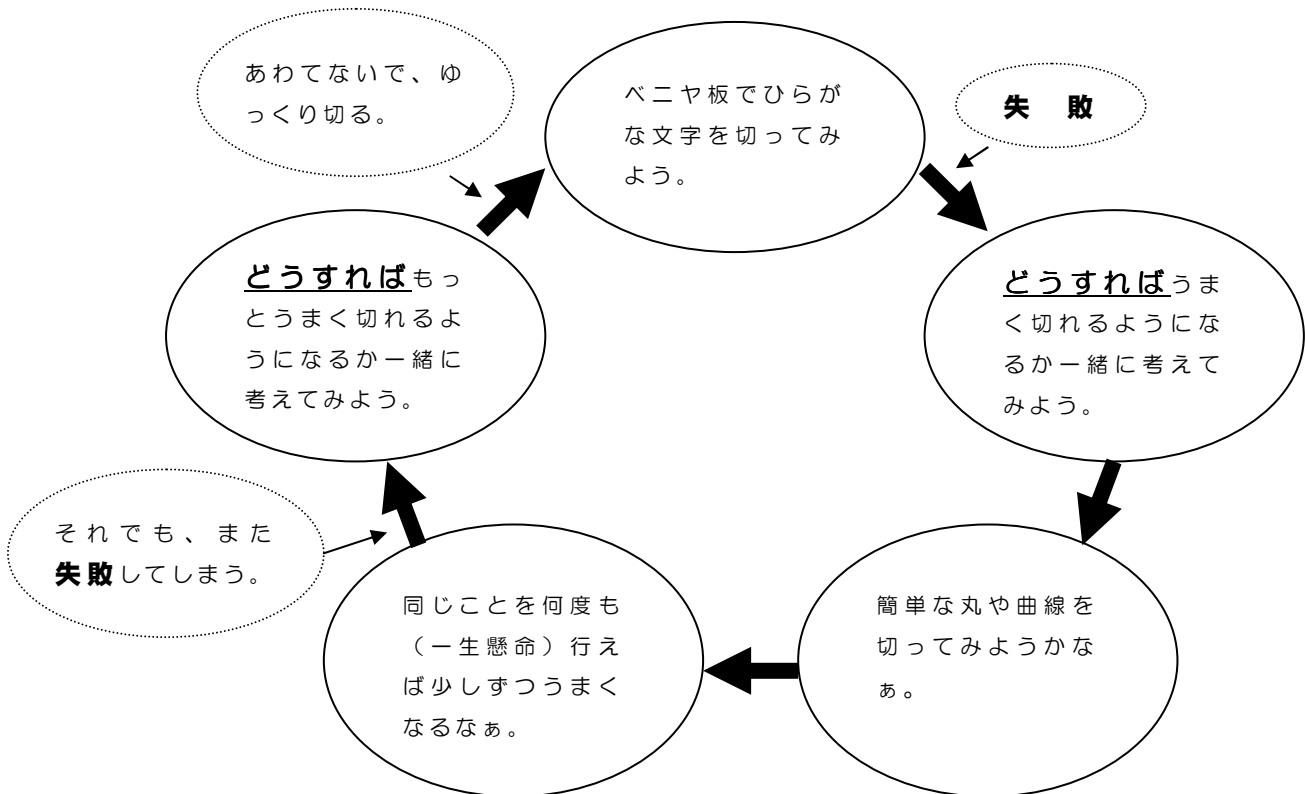
- 私が養護学校で作業学習（木工製品の製作）を担当して、10年になります。障害のある生徒は、一人一人の実態に差があるため、個々の能力を伸ばすためのすべての生徒に共通した指導法はありません。そこで、これまでの作業学習で実践してきたことから、自分なりに共通した基本方針（「こかきくけ」の循環）を考えてみました。これは、決して障害のある生徒の能力を伸ばすためだけの基本方針ではなく、小学生から高校生、さらには新入社員の指導法としても生かせるのではないかと思います。参考にさせていただければ幸いです。

○実践の内容

「こかきくけ」の循環



例：糸のこ機を使って、ひらがな積み木を製作してみよう



◎ポイント◎

指導者の問いかけを「どうすれば」ではなく、「なぜ」に置き換えてはいけない！  
 → 例：“なぜうまく切れないのか一緒に考えてみよう”（否定語が入り、消極的な問いかけになってしまう。）

## ○ まとめ

- ・ この「こかきくけ」の循環をよくすることで、自然と物事に取り組む意欲や能力が高まります。そこで、この循環に必要なもの、すなわち指導者（教師、上司）が指導される側（生徒、新入社員）に与えるものが3つ必要であると考えます。これを「あかぎ（赤城）」の原則と名付けます。

### あかるくあいさつする（ほめる）

→あいさつは、お互いに信頼を高めるための基本。

### かおはえがお

→うまくできるようになった時は、一緒に喜び合おう。

### ぎもんが晴れるまで待つ

→自ら気づくからこそ、自ら進んで行動できるようになる。すぐに答えを言わない。